

## 夢に挑戦する相産づくりを目指して

○8月7日(土)本校の地元である千尋町の納涼祭が大々的に行われました。太鼓・踊り・ヨガの演武を交えて、見応えのある内容でした。テント8張りほどを立て、その1つのテントで本校定時制が手作りの遊び道具を作って参加し、納涼祭を盛り上げました。たくさんの自治会の方がゲームに来られ、定時制の生徒達も喜んでいました。私も招待券を頂いて参加しましたが、那波中学校の校長・教頭さんも参加されていました。

○8月12日(木)本校に生徒が在籍している出身中学校11校訪問し、これまでの訪問校の合計が36校になりました。後は西脇市・加西市・和田山市、東播磨地区等の中学校が14校ありますが、これは機会を見て訪問したいと考えています。今回の訪問は卒業生を送り出していただいたお礼、本校・私の紹介以外に、広い範囲の西播磨地区中学校の訪問を通して地域を実感したかったこともありました。その目的は達成されたと感じています。今回の訪問を通して、以下のことを感じました。



＜琴陵中学校の高い石垣＞

- 1 本校の評判は良い。例 生徒を育ててくれる。部活動が盛んである。生徒指導がしっかりしている。
- 2 当たり前のことですが、歴史のある校舎から新築されたばかりの校舎、街の真ん中にある学校から丘に「登る」学校、山手の学校から海辺に近い学校、1000人を超える大規模の学校から小規模の学校等様々でした。それらを通してやはり西播磨地区は広いとの感じを持ちました。
- 3 多くの中学校で本校職員の「誰々の知り合いです」「誰々に御世話になりました」というのがあり、世間は広いようで繋がりは濃いと感じました。
- 4 駅から近いので通いやすい(藤村; 姫路駅に全ての電車が集まっているので、そこからはJR播州赤穂行き乗換えなし)。
- 5 就職率はいいでしょう(藤村; 学校幹旋に乗る生徒は100%の就職率。数名が学校幹旋を希望しない)
- 6 その他、入学(合格)しにくくなった。

○8月13日(金)第10回高校生ものづくりコンテスト近畿地区大会・機械部門—旋盤作業が大阪府摂津市ポリテクセンター関西で行われました。本校生・中川君が県大会優勝して出場しました。兵庫県か

らは準優勝の豊岡総合高校も出場しました。2時間の時間内でいかに正確に与えられた課題（一箇所はその場で課題が与えられる）をこなすか、各県大会を勝ち抜いた9校で競いました。



中川君はギリギリの1時間59分で作品を仕上げました。審査の結果、84点、第6位になりました。優勝は大阪府立淀川工科高校で、98点でした。ハイレベルの戦いでした。中川君ご苦労様でした。また、関係の先生方ご苦労様

でした。〈コンテスト；中川君〉

○8月14日(日)前の勤務校の同窓会総会がありました。講師の久保利明棋王・王将2冠は前任校に在籍したことがあったので、私の方で同窓会に紹介し、来てもらうことになりました。8月16日に羽生名人との試合があるにもかかわらず、しかも同窓会の日時が先に決定していたにもかかわらず、来てくれました。羽生名人に勝てば、初の関西からの3冠王になります。熱い期待をしています。

彼は演題「棋士の眼～“決断”を見極める～」としてこんな講演をしてくれました。

「1 父と祖父との将棋の見て面白いと思い、4歳のときから将棋を始めた。研修会には小学3年から、奨励会には小学5年から所属していた。奨励会の10人に1人がプロになる。ライバルが2名おり、2名とも高校を中退した。父親は『高校だけは出とけ』といったが、師匠は『この子は確実にプロになれ



ます』といって父親を説得した。3段リーグで30人中、2名がプロに進める。26歳までにプロにならないければ、プロをあきらめるように宣告される。夢にまで26歳までにプロになっていない自分が出てきた。精神的に追い込まれて、負けてしまった。半年後のリーグ戦のときは無心で勝負をかけて勝ちきった。〈加古川南高校中庭；小保2冠〉

2 私には将棋の3ヶ条ある。①勝ち負けは進歩するために必要なもの。②最後まで絶対にあきらめない。③将棋を楽しむ、である。そう思えるようになってから勝負が楽しくなった。成績が上向いてきた。タイトル戦で羽生名人に4回負けた。そして5回目の挑戦で、羽生名人に4勝2敗で勝ったときは、負けたときでも充実感があつた。

3 将棋を世界に普及させたい。中国には将棋人口が50万人いる。フランスで将棋のデモンストレーションを実施したが、100人が参加した。将棋の世界大会を実現したい。」